

# 自伐林家育成に向けた取り組み

青森県三八地域県民局地域農林水産部 工藤真治

## 1 はじめに

拡大造林期に植栽したスギが間伐・収穫時期を迎えているが、材価の低下及び収穫経費の増大に伴う施業意欲の減退により、小規模所有林の間伐が進んでいない。

これらを解決する手段として、提案型集約化施業の推進、路網の整備、高性能林業機械の導入による伐採搬出経費の削減等、各地で様々な取り組みがなされている。

しかし、青森県内においては、国有林の生産請負作業に素材生産事業者の労務が引っぱり、民有林の間伐作業は労務不足に陥っている。このような状況の中、農業経営の傍ら地域内の森林を所有する経営形態が多いことから、地域の森林所有者（農家）に対し、伐採、搬出、運搬、販売までの技術等を指導し、自伐林家を育成することで、間伐を進めることもひとつの方法と考え、今回の取り組みを実施した。

## 2 取り組み内容

比較的農業収入の安定しているたばこ農家60戸あまりで構成されている三戸郡三戸町貝守地区をモデル地区とし、林研グループと共に地域の農家林家に対して間伐作業から木材の販売の方法までを普及する「自分でできる間伐」講座を地域の公民館講座として3回にわたり実施した。

講座を開催する前に、講座内容の検討を行うため、事前に林研グループのメンバーと話し合いを行ったところ、間伐が進まない要因として、次の意見が出された。

- ◆森林組合や素材生産業者に頼むと結構なお金がかかる。
- ◆素材生産業者に頼むといい木ばかり伐られてしまう。
- ◆自分でやるにも間伐のやり方がわからない。
- ◆伐った木がいくらで売れるのかわからない。

このように間伐に対して不信感等を抱いていることから、自分たちで、間伐木の選木、間伐作業の実施、間伐材の販売までを一貫して実施することにより、その不信感を払拭してもらおうと考え、次の3つのテーマで講座を開催した。

### (1) チェーンソーの構造とメンテナンス

山間部の集落ということもあり、ほとんどの参加者がチェーンソーを所有しているものの、これまで構造や手入れの仕方を習ったことはなく、目立ての出来ない方が大半だった。そこで、チェーンソーの構造およびソーチェーンの構造と日常メンテナンスの方法について指導を行った。



写真1：チェーンソーのメンテナンス

## (2) チェーンソー作業の実際

ほとんどの参加者は、立木の伐倒を行ったことがあるものの、その方法については我流で行っていることから、伐倒作業、掛かり木処理作業、枝払い作業、玉切り作業等の基本を理解してもらうために、現地において受け口、追い口の入れ方や伐倒方向の確認方法、安全な掛かり木処理の方法、やってはいけない危険作業など安全に作業を行うためのポイントについて指導を行った。



写真2：伐倒方向の確認

## (3) 間伐作業と木材の販売

どのくらい間伐すればよいのか、伐るのがもったいない等の質問もあったことから比較的平坦な20～30年生のスギ林をフィールドに間伐することで、間伐した木の分の成長量が残った木に振り向けられることや、間伐効果が発揮できる林分密度などの話をしながら、密度測定竿を利用して鋸谷式による選木を行った。

その後、伐倒作業を実施し、掛かり木処理の大変さと、伐倒方向を正確にすることの重要性について実際に体験してもらった。

つぎに普段、農作業に利用しているトラクタを使って全幹集材を行い、1.5トントラックに積載可能な2.5mに玉切りし、直材と曲がり材に分けてトラックに平積みして、隣町にあるチップ工場へ運搬、販売した。

隣町にあるチップ工場は、パレット生産も行っていることから、直材については、9,000円/m<sup>3</sup>で、曲がり材についてはチップ材として4,800円/m<sup>3</sup>で販売することが出来た。



写真3：農業用トラクタで集材

### 3 むすび

#### (1) 結果

今回の間伐講座には、20代から70代まで20名の地域住民が参加したが、そのほとんどが、間伐作業は初めてということだった。山仕事は先代の仕事ということで、山に入ったことのない後継者が、先代の死去に伴い森林所有者になってしまったり、自分が植えた山でも、これまでは初期保育段階であったことなどから、間伐作業は未経験という方々が参加した。

山林が身近にある山間集落でさえ、山の手入れの仕方の知識に関する情報や技術を習得する機会などがほとんど無いということが、今回の取り組みを始める際に感じたことであるが、自分で出来るレベルの作業であっても、知識がないことから、森林組合や業者に委託するしかないと思い、経費の持ち出しを考えて間伐を躊躇するというパターンに陥っていると思われた。

講座参加者からは、「伐るだけなら自分で出来そう」「集材作業が思ったより大変だった」「切り捨て間伐する理由がわかった」「トラックに15本くらい積んでいけば5,000円になるというのは小遣い稼ぎになる」「手間の割に木が安い」「掛かり木処理の仕方がわかった」等、自分で木を伐る自信がついたようだった。

#### (2) 今後の方向性

今後、森林所有者の世代交代等に伴い、山離れが加速することが懸念されているが、民有林管理の主体である、地域の山に暮らす森林所有者に対して、森林に関する知識と技術の普及を着実に続けていくことが、持続可能な森林管理の基本であることから、今後も、各地において間伐講座等を実施することで、間伐作業でも収入を得ることが可能であることを理解し、自分の山に興味を持ってもらうとともに、施業集約化や路網整備に向けた下地ができ、森林の整備が確実に継続されるものと考えている。